

平和への道

市文平和委員会機関紙 No. 13

米120機で北爆再開!

北爆開始へカンボジア侵略

【7964】

▷8・5 いわゆるトンキン湾事件の報復に米軍機がホーチミンなど北ベトナムの要地を爆撃

【65】▷2・7 南ベトナム解放戦線のブレーク米軍基地攻撃の報復に、北ベトナムのドンホイ爆撃（北爆開始）

▷12・15 ハイフォン郊外ウォンと光重所爆撃

▷12・24 北爆一時停止（38日間）

【66】▷4・12 B52が北爆に参加

▷6・29 ハノイ・ハイフォン地区爆撃

▷10・24 マニラでベトナム参戦7ヶ国首脳会議

▷12・2 ハノイ市内初爆撃

【67】▷4・24 ミタ基地を初爆撃

▷8・19 209機の大規模北爆

【68】▷1・30 解放戦線がテト攻勢

▷3・31 ジョンソン大統領、北爆の部分的停止を声明

▷5・13 パリ和平会談始まる

▷10・31 ジョンソン大統領、北爆全面停止を声明

【69】▷6・8 タマムでニクソン米チュー南ベトナム大統領会談、南ベトナムからの米軍撤退などを発表。

タマム・ドクトリン発表

【70】▷3・18 シアヌーク国家元首解任

▷4・20 ニクソン大統領、明春までに米軍15万人の撤退を発表

▷4・30 米軍、南ベトナム軍とカンボジア領に進攻

▷5・1-2 両日にわたり米機約120機が北ベトナム前線爆撃

アメリカ帝国主義の動き

米軍のカンボジア進攻から北爆再開へ、北インドシナ政策は、強気一方のエスカレーションに走っている。これは明らかに米軍部と政府強硬派の主張にニクソン大統領を引きずられた経過を裏書きするものとみられている。4月20日に15万人撤兵を発表した直後から“主戦派の巻き返し”に押され、在ベトナム米軍の安全確保を大義名分とする戦域拡大と戦闘激化への大転換をこられたとみるのがワシントン消息筋のほぼ共通した観測である。勢いにのるタカ派の主張に対してニクソン大統領も、もはや制御がたない情勢が生まれつつあり、2日のレニード国防長官の発言に示されたとおりの強硬路線をひた走りに進む方向は、ここ当分の動かないとみなければならぬ。（毎日新聞 5/4 朝刊）

日本帝国主義の動き（アジア（反共）会議）

政府・外務省は、米軍機の北ベトナム大規模爆撃という新しい事態の推移を慎重に見守りながらも16、17の両日、ジャカルタで開かれるカンボジア和平のためのアジア太平洋諸国会議への参加の姿勢はくすくすしていない。インドシナ半島の戦火のこれ以上の拡大を防ぎ、一日も早い和平をはかるには、この会議に参加して、国際世論を喚起することが必要——といったのが、政府の基本的な態度である。（毎日新聞 5/5 朝刊）

上記の通りに語いつつ、アジア反共諸国会議の盟主たんとここにいるのです。

